

Action Planについて

早川 基(JAXA)

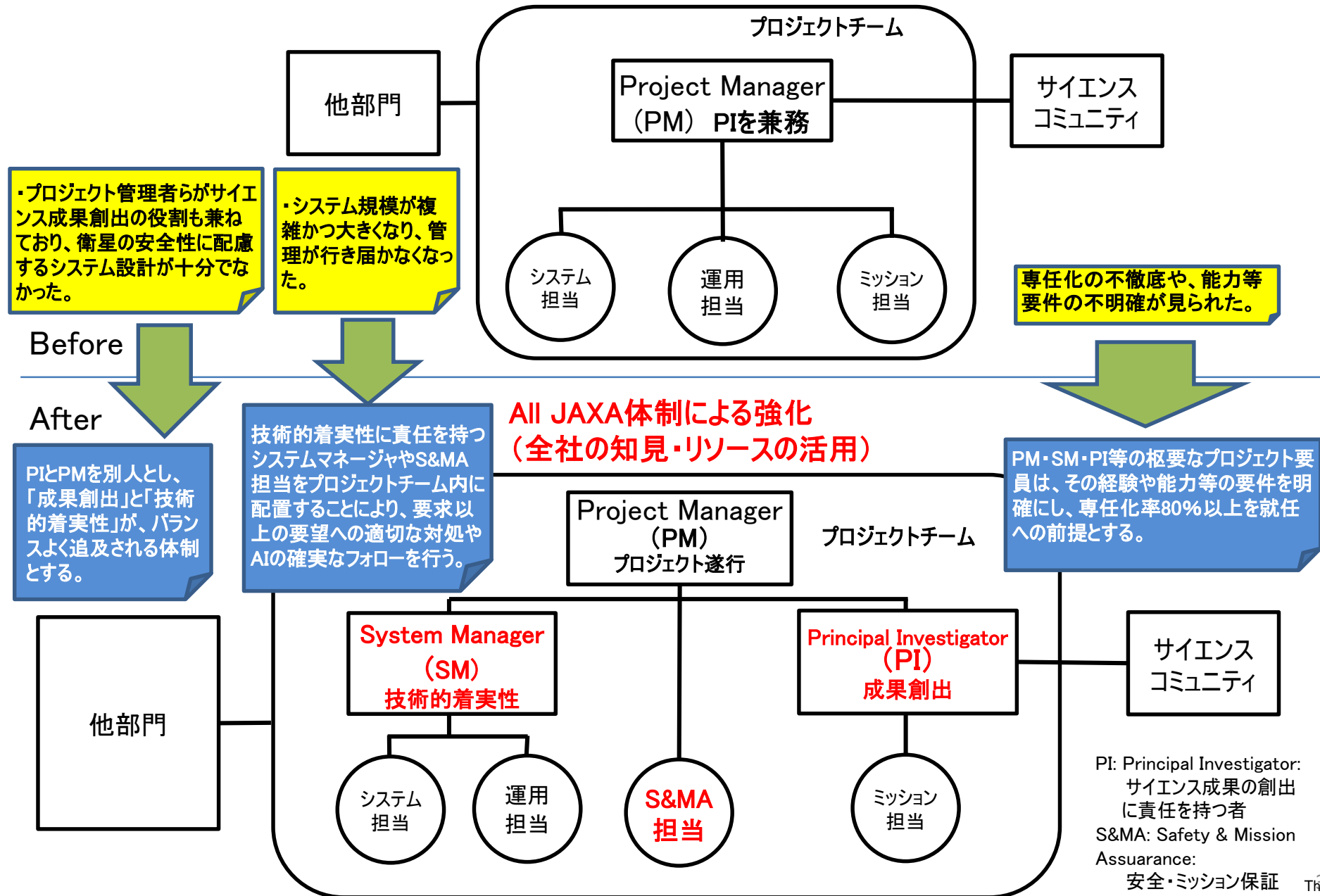
宇宙科学シンポジウム(2017/01/05)

Action Planとは

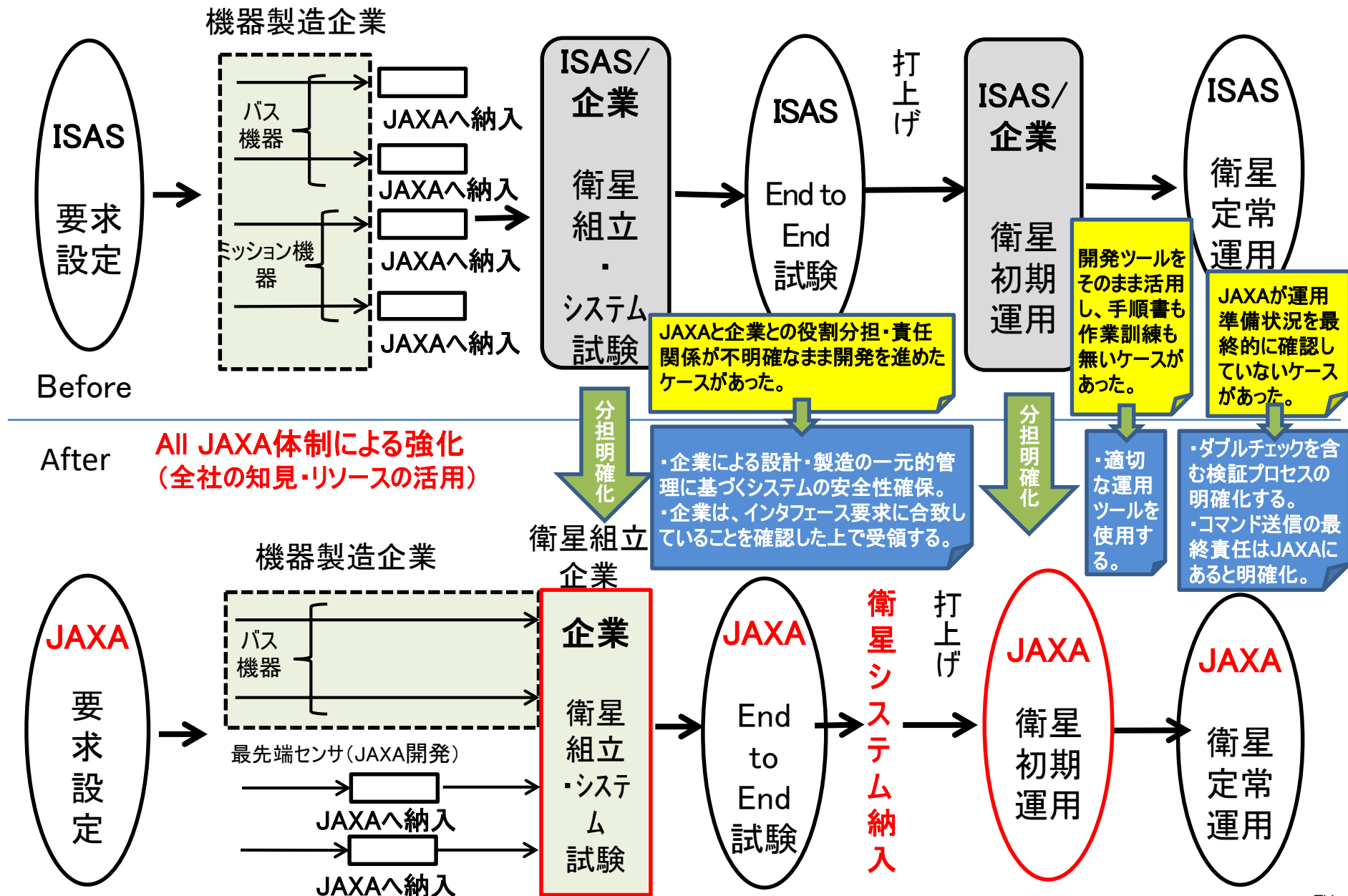
- ひとみの失敗を受けてJAXAが文部科学省宇宙開発利用部会において提示した「**X線天文衛星 ASTRO-H「ひとみ」異常事象調査報告書**」
- これ(↑)を**憲法として解釈**したものが**コンメンタール**
(<https://www.in-jaxa/fw/dfw/iwlx/isas-ca/isasweb/>)
- Action Planはコンメンタールから**Actionに当たる部分を抜き出したもの**

→JAXA内的人是はコンメンタールをまず見て欲しい。

1. プロジェクトマネジメント体制の見直し



2 企業との役割・責任分担の見直し



2 企業との役割・責任分担の見直し

- 注意しなければいけない事
 - 科学衛星の開発において物作りが出来るだけの仕様の策定は**従来までよりも早くする必要**がある。
 - 詳細設計前のJAXAの負荷は従来よりも重くなると考えた方が良い
 - プロジェクト発足前のフロントローディングをどこまで行うかも考えなければならない問題

2 企業との役割・責任分担の見直し

- 注意しなければいけない事

- 詳細設計フェーズにおいてJAXAは仕様書を書いて後は製造企業にお任せすれば良いという事ではない。

Missionのオーバーオールの責任はJAXAにある = きちんとした物が作られているかを **モニターしチェックする責任はJAXA**にある。

→ (ある意味)今までと変わらないレベルの事をする必要はある。

ESA: “Overall supervised by ESA”

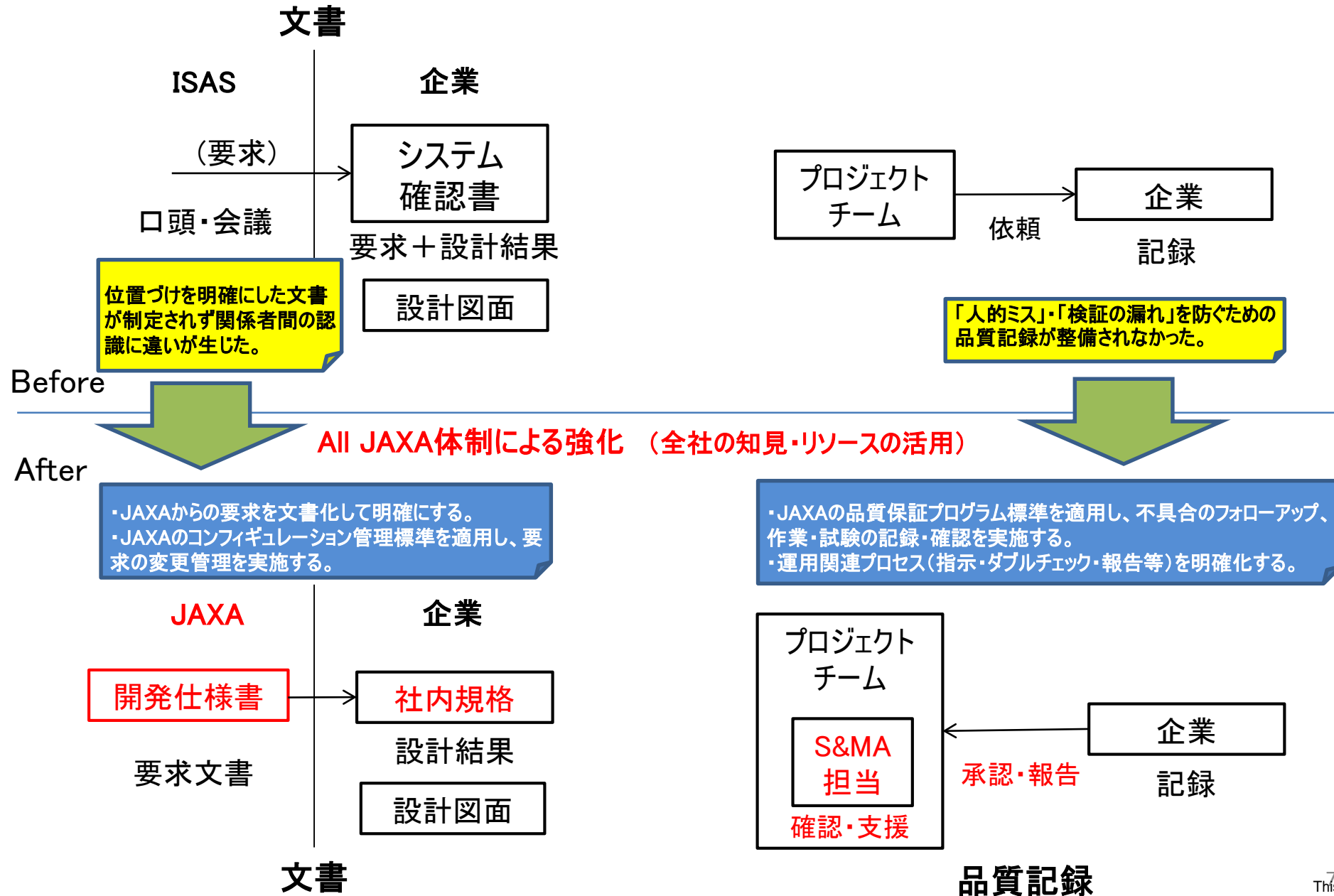
NASA/GSFC: “Trust and verify”

- 一番異なるのは、製造企業に責任を持って頂く事で試験フェーズにおいて宇宙研のプロジェクトでは不足しているシステム全体を見るマンパワーが補強される事。

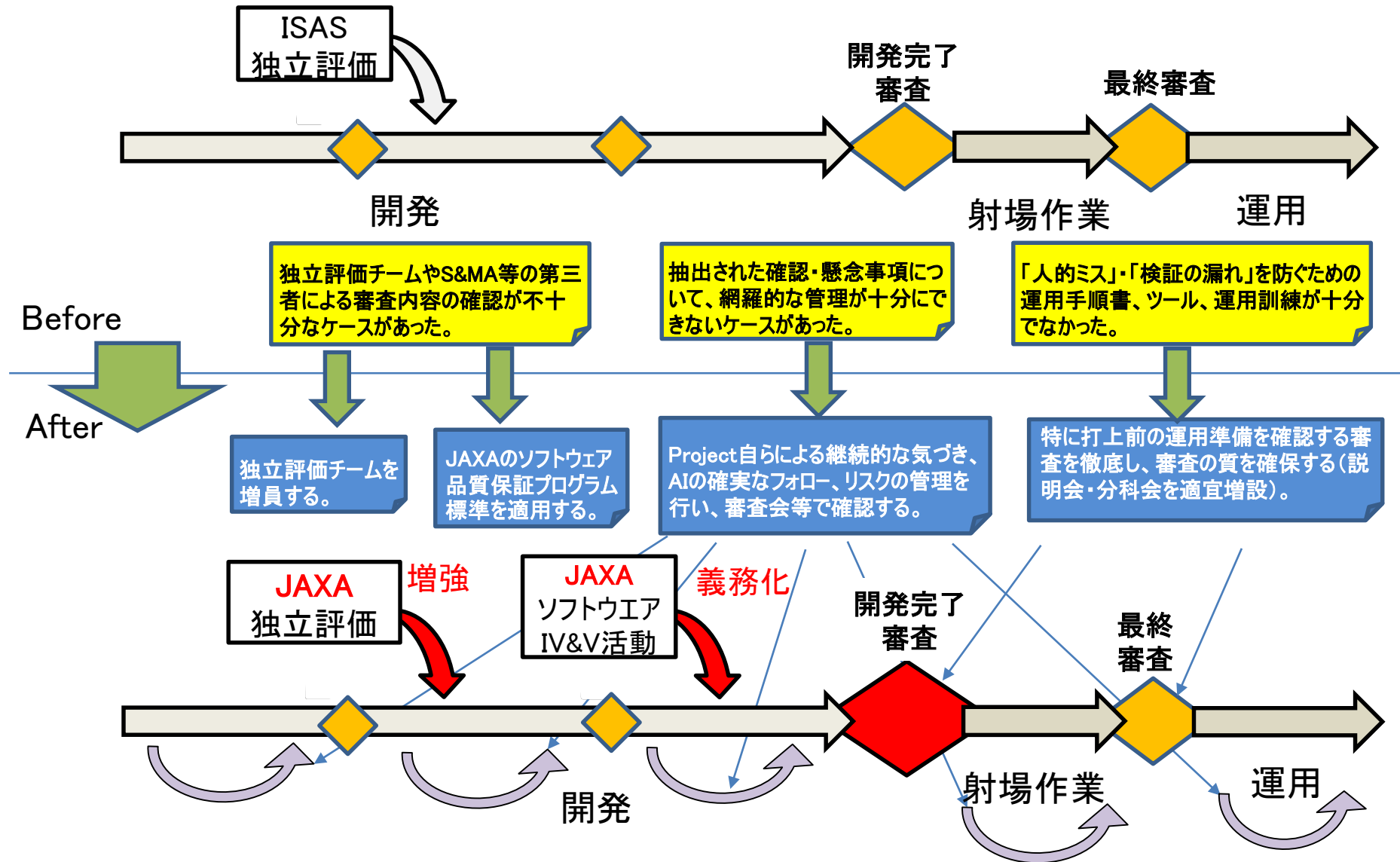
- モニターしチェックすることが出来るためには製造企業のエンジニアと対等に議論できるだけの **技術力がJAXA側になければならない**。

→ 技術を持った人材を育て続けていかないと破たんする

3. プロジェクト業務の文書化と品質記録の徹底



4 審査/独立評価の運用の見直し



All JAXA体制による強化 (全社の知見・リソースの活用)